



2021年 7月 6日
第2号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横浜地本第26回定期大会 スローガン

1. 自らの将来展望と確固たる自分自身を確立し、働く側の視点から「変革のスピードアップ」に立ち向かい、「安全・健康・ゆとり・働きがい」が担保される職場を、全組合員の英知でつくり出そう！
2. 21春闘の怒りと悔しさをバネにたたかった「2021年度夏季手当」のたたかいを総括し、「2021年度年末手当」「22春闘」の要求へと高めよう！
3. 「抵抗とヒューマニズム」を基底に、「新生 JR 東労組運動宣言」のもと組織的基盤を確立し、繰り返されるハラスメントとあらゆる組織破壊攻撃に立ち向かい、組織強化・拡大を実現しよう！

大会宣言 大会宣言

JR東労組横浜地本は7月3日、かながわ労働プラザにて第26回定期大会を開催し、スローガン、運動方針を含め全組合員で組織強化・拡大を実現していくことを満場一致で確認した。

新型コロナウイルス感染症拡大に歯止めがかからず、雇止めが10万人を超えている。組合員は、公共インフラという重要な社会的使命を果たすために現場で日々奮闘している。この難局を乗り越えていくには、労働者の命と雇用を守るために労働組合の真価が問われている。

JR東労組は全ての運動を組織強化・拡大につなげ、コロナ対策や過半数代表者選出の取り組み、ダイヤ改正、春闘、夏季手当など、組合員の声をもとに創意工夫したたたかいを職場からつくり出してきた。

21春闘は連合方針「ベア2%」要求に基づき、JR東労組は一律ベア6、000円の基本要求を掲げグループ会社の仲間と共に、全職場から運動を展開してきた。しかし要求とは程遠い「ベアゼロ」「昇給係数2」と大変厳しい会社回答で、苦渋の判断で妥結に至った。JR東労組は21春闘を「敗北」と総括した。横浜地本では「春闘学習会」「賃金学習会」を開催し、職場のリーダーと共に経営の本質や賃金と手当の違いなどについて学習を積み重ね、逆風のなかでも労働者として賃金を引き上げるために、要求を掲げる意義などを議論できたことは成果である。

21春闘の「敗北」をバネにした夏季手当要求についての会社回答は2.0ヶ月という「生活実感」と「労働実感」を否定するものであり、JR東労組結成以来、初めての再申し入れを即日行った。この怒りを組織強化・拡大に結び付け、「年末手当」「22春闘」の要求実現に高めていく。

「新たなジョブローテーション」施策は一年が経過したが、組合員自らが描いたキャリアプランと施策を通じた社員・家族の幸福とは程遠い人事運用がなされている。組合員から簡易苦情処理が発生したことは異常事態である。労使で確認した運用基準を反故にすることは絶対に許してはならない。組合員の声をもとにすべての施策の点検・検証を行い、安全・健康・ゆとり・働きがいのある職場を実現しよう。

JR東日本会社は発足以来はじめて赤字経営に直面し、「変革2027」は、ポストコロナ時代を見据え、変革のスピードアップがめざされている。赤字経営という現実を自覚し、突破していくために「雇用と職場を守るためのJR東労組緊急提言」を全組合員で実践していこう。

菅政権のコロナ対策の遅れや国民の意思とは乖離したオリ・パラ開催を強行しようとする姿勢に、国民の不信や不満は高まる一方である。私たちの生活に政治は無関係ではない。鎌倉市議会選挙では、横浜地本推薦議員等懇談会の皆さんと固く連携し、岡田和則氏を当選させることができた。平和で安心して生活できる社会を実現するためにともにたたかおう。

この社会において労働者一人では立ち向かえない。だからこそ結集できる「アソシエーション＝労働組合」が必要不可欠であり、社友会では労働者の利益を守ることはできない。一步が踏み出せない離脱者や未加入者に、組合員一人ひとりがJR東労組に結集させる行動が問われている。労働者の労働条件を守るため、自らの将来展望と確固たる自分自身を確立し、JR東労組の組合員であることを実感できる当たり前の労働組合運動を推し進め、組織強化・拡大を勝ち取る。

私たちJR東労組横浜地本は「新生JR東労組運動宣言」を実践し、自由闊達な議論のもと全組合員で運動をつくり出し、人間らしく、JR東労組の未来を切り拓こうではないか！

以上、宣言する。

2021年7月3日
東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部
第26回定期大会



満場一致で採決！ 東労組の仲間と 共にガンバロー！

